

年次総会に出席して

会員 西山忠壬

東京と地方の隔年で開催される全国日独協会連合年次総会は、今年ぐんま日独協会主管の下、群馬県草津町ほてる中沢ビレッジで去る4月24日たたみパーティの前夜祭で先ず平形会長の仕舞と挨拶、木村敬三連合会長代行、中澤町長、フィッシャー公使、独日協会ノイエルト女史の挨拶の後、中川日独協会副会長の乾杯で懇談会に入る。翌25日午前10時、木村会長代行の開会宣言に引き続きデア駐日ドイツ大使、小寺弘之群馬県知事、全国日独協会副会長ノイエルト女史の来賓挨拶、フィッシャー公使らによるトークショーが行われた。今年の年次総会には北は北海道、南は沖縄まで、新入会の和歌山を含め56の協会より22の協会から代表者が参加した。湘南日独協会からは織田会長と吉田事務局長と私が参加した。他に協会幹部44名、地元ぐんま日独協会会員54名、ドイツ大使館からはデア大使以下12名、ドイツ側から13名、学生50名、更にドイツ文化センター、ダイムラー社の方々を含め総勢161名の参加があった。

会議は「日本におけるドイツ年」は終了したが、現在はその延長であり、次代を担う若者を都市部だけでなく、地方に拡大して日独交流を深めていく活動をして行きたい旨の大使館の意向に添った形で進められた。その結果が今回の50名の学生参加に繋がった。

各協会の活動報告の中で織田会長より「湘南日独協会ではワイマール市の独日協会と交流を行っており、昨年はワイマール市から市長以下138名の市民の来訪があった。協会内のサークル活動の充実が会員増強に繋がっている」との発言があった。

因みに今回、草津町が会場に選ばれたのは、明治9年東京医学校教授として来日したドイツ人・ベルツ博士が草津を優秀な保養地として海外にも紹介したことからドイツと友好関係にあることによる。

湘南日独協会 2007 年度活動予定

■ 6月23日(土) 18:00～20:00

会員懇話会 5/14～21「ドイツ訪問の旅」報告会

■ 7月22日(日) 13:30～15:30

第52回例会 講演会

演題 「国際極年とドイツ」

講師 伊藤 一氏 (国立極地研究所助教授)

会場 湘南アカデミアサロン

会費 会員 2,000円 一般 2,500円

■ 9月8日(土) 18:00～21:00

第53回例会 “湘南オクトーバーフェスト”

会場 藤沢市民会館 第一展示ホール

従来7月開催されていた「ドイツフェア」が衣更えして9月に「湘南オクトーバーフェスト」として開催。

■ ドイツ大使賞 絵画コンテスト2007

わたしのドイツ

ドイツについてどんなイメージを持っていますか？
サイズはB4以上。油絵、水彩画、バステル画、色鉛筆画など表現方法も自由。日本に住んでいる小・中学生からの作品を待っています。(グループ作品もOK)。題名、作者氏名、住所、電話番号、学校名を書いて次へ 〒106-0047 東京都港区南麻布 4-5-10
ドイツ大使館「私のドイツ」係。〆切8月31日。

湘南日独協会会報 (Der Wind)

VOL. 9. NO. 3. 通巻51. 発行 2007. 5. 27.

湘南日独協会

Japanisch-Deutsche Gesellschaft in Shonan

事務局：〒251-0025 藤沢市鵠沼石上1-1-1

江ノ電第2ビル7F

TEL0466-26-3028 / FAX0466-27-5091

湘南日独協会 会報

Der Wind

(風)

全国日独協会連合会総会開催さる



フィッシャー公使らによるトークショー

湘南日独協会 第51回例会 講演会

「ドイツ・リニアモーターカーの実状」

■ 5月27日(日)13:30～15:30

講師 西山忠壬氏 (元ケー・ブラッシュ商会顧問)

会場 湘南アカデミアサロン

戦時中に開発されていたドイツのロケット技術が敗戦によりアメリカとソ連に流出しました。そこでドイツではロケットに代わり、次世代に誇れる技術の開発を模索していたところ、あちこちの企業で磁気浮上列車の開発が始まり、ドイツ政府としてもこれに積極的に経済支援をおこなってきました。その後の展開を追います。

マイセン焼きのチェスの駒

会員 西沢英男

3月例会での松村さんのお話『アウグスト強王とマイセン陶磁器』を拝聴しているうち、ふた昔も前のことをふいに思い出しました。

東京で開催された『マイセン陶磁器展』を観に行ったときのことでした。陳列された絢爛豪華な焼物の中に面白いものを発見したのです。チェスの駒です。マイセンはアウグスト強王の統治下にあった町ですから、アウグスト強王をキング、王妃をクイーンに見立て、マイセン焼きで一揃いのチェスの駒を仕上げれば、対局用にも鑑賞用にもなりえます。ちなみに、人物をモデルにしたチェスの駒はいろいろあり、お国柄を表わしていてとても興味深いものがあります。例えば、フランツ・ヨーゼフ1世、ナポレオン、ダルタニアン、ロビン・フッド等々枚挙にいとまがありません。

ところが、展覧会で観たものは瀬戸物の盤の上にへばりつくように並べられた海の生き物（イカ・タコ・ヒトデ・ウニなど）をデフォルメした駒でした。来場の客を胡散臭そうに睨みつけているようです。チェスの対局にも、また鑑賞用にもあまり役に立ちそうもありませんが、どこことなくユーモラスで、愛嬌たっぷりなのです。こんな面白いものを焼物にしようと思いついた人は、なかなか洒落っ気のある人に違いありません。規則尽くめであまり融通の効かないと思われがちなドイツ人(?)としてはよくやったと、作者に拍手喝采を送ります。

この駒の写真があれば、その面白さをお目に掛けられるのですが、残念ながらそれは私の頭の中にあるだけなのです。本物のマイセン焼きは高価で手が出ません。類似品でもいい、今度マイセンを訪れるときには、町中を探し回ってこようと思っています。なぜって、わが家の飾り棚でダルタニアンやロビン・フッドたちが、この愛嬌者がやってくるのを、首を長くして待っているような気がしてならないからです。

7月例会へのお誘い

国際極年とドイツ

国立極地研究所 伊藤 一

今年2007年3月から、国際極年が始まりました。50年ごとに開催されていて、今度が四回目です。世界中の人が力をあわせて南極や北極のことを詳しく調べようという年です。日本やドイツは温暖な気候帯にあり、極地とは離れていますが、どちらも国際極年の主要メンバーです。

日本も極地も地球の一部です。地球全体のことがわからなくては、特定の場所、例えばドイツのこともわかりません。南極の大気の状態と神奈川県のお天気とは無関係ではありません。シロクマがアザラシをたくさん食べると、相模湾の漁獲量も影響を受けるかもしれません。地球は一つながりです。

そういうわけで、ドイツの研究者も日本の学者も熱心に国際極年に取り組んでいます。

第一回の国際極年は1882年(明治15年)に開催されました。それに先立つ1873年、現在のロシア西部の北方沖はるかかなた(1000km)に群島が発見されました。地球上最後の大発見です。フランツ・ヨーゼフ・ランドと名づけられています。ユーラシア大陸の北端です。北極点からわずか900kmしか離れていません。

191の島からなり、総面積1万6千平方km(比較のため四国は1万8千平方km)、北緯80度から82度に位置しています。氷河と岩ばかりの島には人が住んでいません。年間平均気温がマイナス13度と、この緯度にしては高めなのは、周りを海に囲まれているためです。

さて、問題です。フランツ・ヨーゼフはオーストリア・ハンガリー帝国の皇帝です。ドイツ語圏の南部を支配していた大国が最盛期のころの王様です。どうして、はるか南方の皇帝の名前が、極北の無人島に冠せられ



北極熊に危機迫る

たのでしょうか？

実は、国際極年とドイツは当初から深い関係にあったのです。答に興味があれば、7月22日の講演を聞きに来てください。キーワードはフランツ・ヨーゼフです。

《お知らせ》 ベルリンフィル12人の 金管奏者たち

2007年7月20日(金) 19時開演
東京オペラシティコンサートホール

「日独協会特別優待販売」として会員の方に
S席(通常7,000円) → 優待価格 6,300円
の価格でチケットを提供していただけます。

この機会に世界最高峰ベルリン・フィルハーモニー管弦楽団の贅沢な12人のアンサンブルをお楽しみいただいてはいかがでしょうか。

お問い合わせ先

産経新聞社 事務局(担当:岡本さん)まで。

TEL03-3275-8905 / FAX03-3243-1800